

# 流弾近くに公園も

**沖縄住民「あつてはならぬ」**

沖縄県の米軍キャンプ・ハンセンに隣接する

金武（きん）町伊善（いぜん）区で発生した流弾事故

の現場周辺は、住宅街が広がる場所でした。

近くには公民館や公園



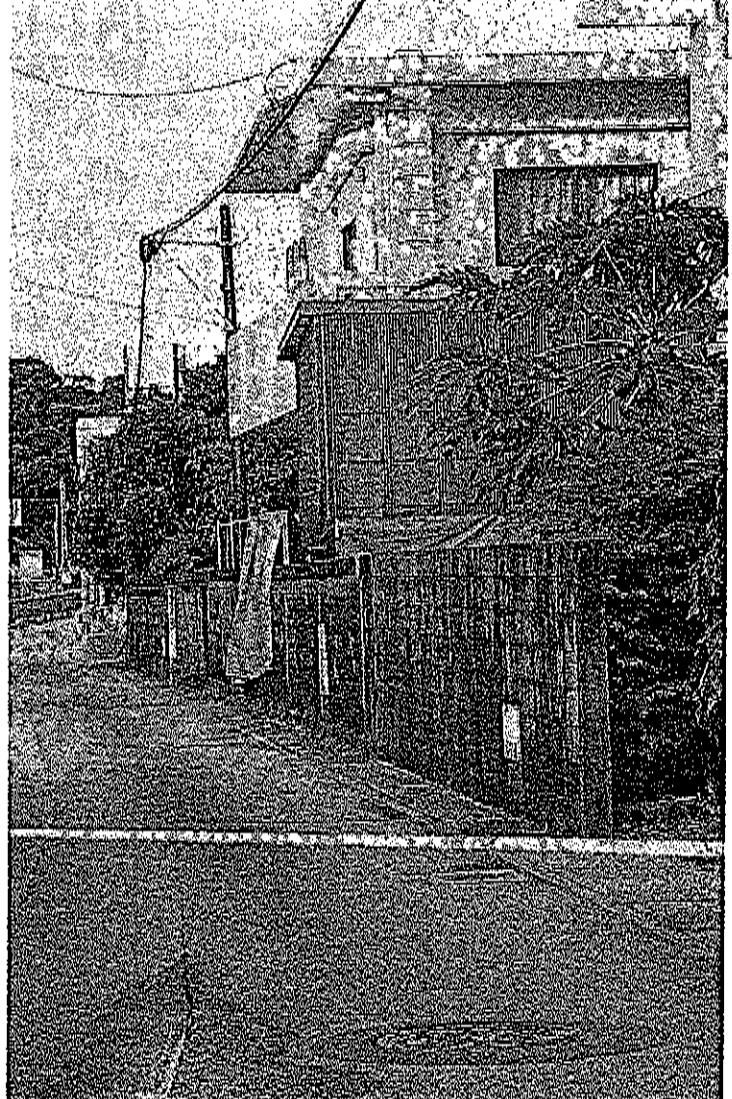
の散歩で現場周辺を通りかかった同区在住の女性（50）は、相次ぐ流弾事故は「あってはならない」と述べ、「万が一子どもたちや近所の人

沖縄県では1972年の本土復帰後も、米軍による事件や事故が絶えません。演習場などからの「流れ弾」が

民間地に着弾する事故が相次いでいます。最近では、2018年に名護市数久田（すぐた）の農作業小屋が

流れ弾を受け、窓ガラスが割れました。17年には、恩納村の安富祖（あふそ）ダム工事現場で流れ弾とみられる銃弾が発見されました。

実弾射撃演習が頻繁に行われている米軍キャンプ・ハンセンがある金武町での被弾事故は特に多く、1988年には沖縄自動車道の伊善サービスエリア給油所など8カ所に着弾しました。



現場周辺にはられた規制線（手前）と現場と思われる場所を覆っているブルーシート（奥）＝7日、沖縄県金武町

日本安保体制と米国の軍事戦略により米軍基地が集中する沖縄県で、住民は危険と隣り合わせの生活を余儀なくされています。

に当たったかと思つと「怖い」と語りました。

沖縄県によると、1972年から2020年

年度まで米軍基地に関係する流弾事故は28件発生。うち12件がキャンプ・ハンセンに関

連するものです。ただ、米軍は基地との関連性を認めない場合も少なくありません。